



いにしえ
古の安曇野の姿を巡る

8/11 古墳発掘調査見学会

市の史跡「穂高古墳群」のうち、代表的な古墳を巡る古墳発掘調査見学会（豊科郷土博物館主催）が8月11日に行われました。このうち国営アルプスあづみの公園内のF9号古墳では、國學院大学による発掘調査を見学し、石室の様子などの説明を受けました。当日は19人が参加。参加者の北野のぞみさん（豊科北中1年）は「発掘作業がとても楽しそうでした。見学した古墳の様子は学校の授業で発表してみたいです」と話してくれました。



青空の下に子どもたちの歓声

9/1 あづみっ子祭り

あづみっ子祭り（市教育委員会主催）が9月1日、豊科南部総合公園で行われました。この催しは、市内の幼児から小学生までの子どもたちが野外での遊びを通じて交流するもので、当日は2,000人を超える参加者が来場しました。会場には紙飛行機やシャボン玉などの体験あそび、めんこ、お手玉などの伝承あそびコーナーなどが設けられ、遊びを満喫する子どもたちの元気な声が会場に響きました。参加者の義見風醒くん（小1）は「巨大迷路で弟と友達とで遊んだのが一番楽しかったです。来年も来たいです」と話してくれました。

安曇野の夜空へ1万1千発

8/14 第6回安曇野花火大会

6回目となる安曇野花火大会（実行委員会主催）が8月14日、明科御宝田遊水池で行われました。本年は「輝け安曇野」をテーマに1万1千発の花火が打ち上げられました。

市消防団音楽喇叭隊のファンファーレに合わせ、オープニング花火が一斉に打ち上げられた後、「錦」や「菊」など7つのテーマに沿って、色とりどりの花火が打ち上げられると集まった約2万人の観客から大きな拍手と歓声が上がっていました。



たきぎ
新能・幽玄の世界を堪能

8/18 信州安曇野薪能

第22回信州安曇野薪能（実行委員会主催）が8月18日、明科龍門湖公園多目的広場の特設能舞台で開催されました。

この薪能は、観世流能楽師であった名誉市民の故青木祥二郎さんが旧明科町の名誉町民に選ばれたことがきっかけで始まったものです。

第18回薪能以来の再演となる新作能「犀龍小太郎」は、松本平の誕生にまつわる民話をもとに青木道喜師が創作したもので、小太郎たちが岩山を砕いて湖の水を抜き、豊かな平野をもたらすという物語です。親しみやすい内容と、ユーモアのある演出に会場は大いに盛り上がりました。

このほか能「菊慈童 遊舞之楽」や狂言「六地藏」なども上演され、会場に詰め掛けた約700人の観客は、夕闇に迫るアルプスの山々を背景に、かがり火が映し出す幽玄の世界を心行くまで楽しみました。また、開演前には市内の小・中学生の皆さんによる連吟・仕舞が披露されました。



スタジオ完成 開局準備着々

8/25 あづみ野エフエムスタジオ見学会

市内を主な放送エリアとするコミュニティーFM局、あづみ野エフエム放送（花村薫社長）のスタジオが完成し8月25日、関係者などに公開されました。当日は、スタジオでの模擬放送や、11人のパーソナリティー、番組審議委員などの紹介が行われました。同局では1日3回、2時間程度の生放送による自主製作番組のほか、外部からの番組配信を受け24時間放送を行う予定です。花村社長は「市民参加型の安曇野が元気になる番組づくりを目指したい」と話しました。周波数は76.1MHz。11月中旬の開局を目指します。



ひけつ
健康一番 長寿の秘訣

9/5 市内最高齢者などに祝い品伝達

市では、敬老の日の高齢者祝賀事業として、9月5日、市内で男性の最高齢者となった嶋崎巖さん（102歳）を村上副市長が訪問し、祝い品を手渡しました。嶋崎さんは、目標の100歳に到達してあらためて健康が一番と感じ「孫やひ孫の成長が楽しみ」と話しました。また、長寿の秘訣は「規則正しい生活と3度の食事。頭を使うこと。そして毎日を悔い残さずに生きること」と話してくれました。

このほか、市内で女性の最高齢者の三枝つるさん（106歳）をはじめ、本年度88歳を迎える男女512人と100歳を迎える男女28人にも祝い品を贈り、長寿を祝いました。